

つるに農事ばかり

農から学ぶ生きる力 農業体験学習

5/23「田んぼの学校」で田植え指導するVIC・ウーマンの皆さん

先進国の中で日本は最低

日本の食料自給率は今や40%を切っており、先進国の中では最低クラスです。コメ以外のほとんどの食べ物を海外からの輸入に頼っています。このような現状で、わたしたちは本当に安全で安心な食べ物を口にしているのでしょうか。幸いなことに、わが青森県の食料自給率は105%（当町は200%超）と100%を超え、日本の台所となっております。日本の農業が見直されている今、すぐそばに田んぼがあり畑がある町の子どもたちが『農業』を体験し学ぶことは、子どもの生きる力につながり、将来の食料事情や農業をきつと明るくしてくれることでしょう。そこで今回は、町で取り組んでいる農業体験学習の模様をご紹介します。

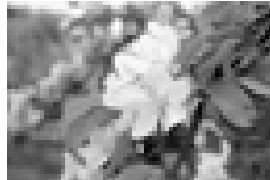


△違う品種を接ぎ木した箇所を教える中野さん

『リンゴ人工授粉体験』

五月十一日（月）中野光彦さん（妙堂崎）のリンゴ園地で、水元中央小学校の五年生十七人が人工授粉の体験学習を行いました。あいにくこの日は雨が降り、花柄が湿気を嫌うためぼんてん（授粉棒）での授粉作業はできませんでしたが、雨降りの時に使うとっておきの器具「花粉授粉器」が登場。児童たちは、中野さんから使い方を教えてもらおうと、リンゴの実のなる中心花へ「シユ、シユ」と花粉を付けていきました。

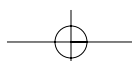
このリンゴの生産体験学習は十二月まで続けられ、摘果、袋はぎ、収穫・出荷までの作業を体験します。

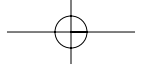


△今年は5/10ごろ満開に



△空気で押し出す花粉授粉器を初めて使う児童





『田植え教室』

今年、五月十四日(木)ころから田植えが始まり、二十三日(土)ころから最盛期に入り、そして、各小学校でも田植え教室が行われました。

○二十日(水) 葛蒲川小学校
作付け・もち米

○二十一日(木) 胡桃館小学校
作付け・うるち米(つがるロマン)

○二十五日(月) 富士見小学校
作付け・うるち米(つがるロマン)

○二十八日(木) 梅沢小学校
作付け・もち米

児童たちは泥まみれになりながらも、農家の方から、植え方を教えてもらい、型どおりに順序良く

植えてゆき、最後に田んぼの神様へお供えをして、今年の田んぼの豊作を祈りました。

今年町では、昨年に引き続き廻堰地区の水田(須藤喜眞一さん所有)をお借りして、「水辺環境体験学習・田んぼの学校」を開設しています。

これは、子どもたちに農作業体験を通して、自然豊かな水環境の基礎となる水と土の在り方を学んでもらうための事業です。

五月二十三日(土)、最初の農作業体験として、農作業の経験のない子どもたち五十人が一斉に田植えを行いました。参加した子どもたちは、泥んこになりながらも

田んぼの感触を肌で感じていました。

また、都会の子どもたちに農作業を体験してもらおうと、当町より農協の販売指導課長と産業観光課職員が現地に出向き、六月六日(土)、神奈川県川崎市立京町小学校で田植え教室が行われました。

五年生百十三人が、校庭の池を利用して作られた田んぼで農作業体験をしました。

田舎でも都会でも、子どもたちが、素足で田んぼに入り泥まみれになりながら田植え作業をしている姿から、子どもたちの生きる力を感じとることができます。



1.田植えが終わるとお酒をお供えして田んぼの神様にお祈りをする(富士見小) 2川崎市立京町小学校では校庭の池が田んぼに変わった 3.苗を大切に扱うように田植え指導を行ういがるにじきた農協の神課長 4.昨年経験している女の子たちは慣れた手つきで上手に植えていた(葛蒲川小) 5.初めての田植えに挑戦(胡桃館小5年) 6.転んで泥だらけになっても田植えは続けられた(梅沢小) 7.5月16日(土)、中野町長が管内の田植えを巡回督励

